

富士山絵画の

静岡県富士山世界遺産センター 平成三〇年度秋季特別展

名品、
ここに集結
富士山絵画の
頂点へ



狩野伊川院栄信(1775~1828)・晴川院養信(1796~1846)筆 春景富士図 江戸時代(1819~29年)
京都市立松尾小学校蔵(京都市学校歴史博物館管理) 【第一部展示】



狩野伊川院栄信(1775~1828)・融川寛信(1778~1815)・探信守道(1785~36)筆 富士越龍・須磨・明石図 江戸時代(1819~29年) 成田山新勝寺蔵 【第二部展示】

正統

シリーズ
江戸文化の
なかの富士山 I

19世紀狩野派の旗手

伊川院栄信と晴川院養信

2018年9月22日|土| - 11月25日|日|

[第一部] 富士山図 定型の生成とその変奏 = 9月22日(土)~10月14日(日)

[第二部] 巨匠たちの競宴 富士越龍 = 10月20日(土)~11月25日(日)

(第一部・第二部展示替えのため10月15日~19日企画展示室は休室。特別展はお休みさせていただきます)

- 開館時間 / 9:00-17:00 (最終入場は閉館の30分前) ● 休館日 / 毎月第三火曜日(10月15日~19日企画展示室は休室します)
- 観覧料(※) / 一般:700円、70歳以上:200円、大学生等以下・障害者:無料(証明書をご提示ください)

※常設展含む。企画展のみのチケットは販売していません。

後援: NHK静岡放送局



静岡県富士山世界遺産センター



シリーズ 江戸文化のなかの富士山 I
富士山絵画の正統

静岡県富士山世界遺産センター
平成30年度 秋季特別展

19世紀狩野派の旗手 伊川院栄信と晴川院養信

人々に畏怖の念を与え、ときに篤い崇敬を集めてきた聖なる火山—富士。噴火を繰り返し溶岩流ですべてを焼きつくす荒ぶる姿とは対照的に、白雪をまとい優雅に稜線を垂下させる麗しい姿は、古来詩歌にたえられるとともに、絵画作品としても伝えられてきました。とりわけ東西の往還が盛んとなる中世以降には、富士山は単独の絵画主題としても描かれるようになり、やがて狩野探幽(1602～1674)による定型も成立し、日本人の視覚イメージや景観認識を規定していきます。

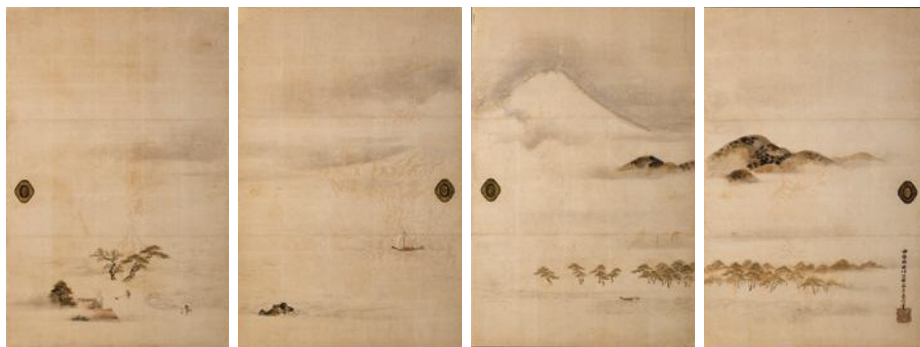
江戸時代中～後期になると、富士山は新しい首都江戸の標徴とみなされ、絵画作品に頻繁に登場するようになります。とりわけ18世紀末から19世紀にかけては、葛飾北斎(1760～1849)や谷文晁(1763～1840)、酒井抱一(1761～1829)ほかの巨匠が綺羅星のごとく登場した江戸画壇の黄金時代でしたが、彼らが競ってとり上げた画題が富士山でした。この時代には葛飾北斎画『富嶽三十六景』に代表される富士山絵画の連作が陸続と制作されるとともに、「富士越龍」のような吉祥画題による作品など、さまざまな富士山絵画の主題が生み出されました。富士山絵画の型が成立しジャンルとして定着したのが江戸時代であり、いわゆる「化政文化」を育んだ18世紀末から19世紀の江戸は、その百花繚乱の季節でした。

こうしたなか徳川将軍家御用絵師筆頭、狩野伊川院栄信(1775～1828)・晴川院養信(1796～1846)父子は、探幽以来の型を継承し同時代の新傾向にも目を配りつつ画壇を牽引した、富士山絵画の正統でもありました。

静岡県富士山世界遺産センター開館を記念するとともに、「江戸文化のなかの富士山」シリーズの第一回となる本展覧会では、狩野伊川院栄信・晴川院養信を定点観測地とし、富士山絵画の定型の成立と展開について狩野派作品を中心に通時的に検証する第一部、富士山絵画そして江戸画壇の最盛期を「富士越龍」テーマの比較を通し共時的に検証する第二部から江戸時代富士山絵画の豊饒な成果を通覧します。

第一部

狩野派富士山図250年の歴史を通覧する—『富士山図 定型の生成とその変奏』 9月22日(土)～10月14日(日)



狩野晴川院養信(1796～1846)筆 富士三保松原図 江戸時代(1823～24年) 臨濟寺蔵

将軍の都が東国に置かれた江戸時代、富士山図は絵画ジャンルとして確立されますが、富士山をめぐる絵画史に規範となる定型を提供したのが狩野探幽でした。探幽の編み出した定型は、江戸時代を通じて狩野派内外の画家たちに広く受容されます。第一部では、江戸時代はじめ狩野探幽が生成した定型がいかに変奏しつつ狩野伊川院栄信や晴川院養信に受け継がれていったかを通覧し、メインストーリーの系譜としての狩野派富士山図を検証していきます。

第二部

江戸画壇の黄金期を俯瞰する—
『巨匠たちの競宴 富士越龍』

10月20日(土)～11月25日(日)

19世紀末から18世紀前半、寛政期から文化・文政・天保期にいたる江戸画壇は、葛飾北斎や谷文晁、酒井抱一など諸派の巨匠がしのぎを削る百花繚乱の季節でした。この時代には狩野伊川院栄信・晴川院養信父子や狩野素川彰信(章信)ら江戸狩野派の後英たちも活躍し、探幽以来の祖法にとらわれない新機軸を打ち出しました。第二部では、「富士越龍」というテーマを中心に18世紀末～19世紀前半の黄金期江戸画壇を横断的に通覧し、そこに狩野伊川院栄信と晴川院養信の画業を位置づけていきます。



谷文晁(1763～1840)筆 富士越龍・三保松原・東下り図 江戸時代(19世紀前半) 個人蔵



葛飾北斎(1760～1849)筆 佐久間象山(1811～64)賛 不二越龍図 江戸時代(19世紀前半) 個人蔵



関連イベント

「富士山絵画の正統」展
記念講演会とギャラリートーク

vol.1 9月23日(日) 13:30～15:00 ※要:企画展チケット
vol.2 11月3日(土) 13:30～15:00

- 会場/1階研修室(定員45名・申込み不要・当日先着順)
- 講師/松島仁(静岡県富士山世界遺産センター教授)

静岡県富士山
世界遺産センター

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12
TEL.0544-21-3776 FAX.0544-23-6800
JR 身延線富士宮駅から徒歩8分
●新東名高速道路新富士ICから約10分
●東名高速道路富士ICから約15分

